

入選

ジュリアーニ アンドリュウ 純一

(じゅりあーにあんどりゅうじゅんいち) 松木中 2年生

作品名：「Dear. こげんた」を読んで

図 書：Dear. こげんた

「こげんた」という子猫を知っていますか？こげんたは世界中の人々の心を動かした猫である。二〇〇二年五月七日、とても残虐な事件がインターネットの掲示板でおきた。捨てられた子猫が男の人に拾われ、餌をもらい嬉しそうにその人を見上げる。そしてそれが子猫の最後のディナーとなった。サイトには近年動物虐待の投稿が多いらしい。自分より弱い者を苦しめて公開虐殺を平気でやる人がいる事もこの本で知りぼくは大きなショックを受けてページをめくりながらも手が震えた。初めにこのような文を読んでとまどった。ネットに上げられた最初の写真は子猫がこちを見上げ舌をペロツと出している愛らしい猫。次は、ワイヤーでぐるぐる巻きにされ痛そうに顔をしかめている猫。そして次はペンチでシッポを切られ痛さでうずくまり身動きが出来ずにいる先程の子猫。その先は読むのが怖かった。最後の映像は、もう繋がっているのかもわからない猫の首に「俺は敗北者です。」と書いたCDが掛けられ、猫の目は完全に瞳孔が開ききっている様だったと書かれていた。しかも切られたのはシッポだけでなく耳も足も切られ割り箸をおしりに刺し、声が出ない様に喉に穴を開けられ、子猫の呼吸の度に空気が通るシューシューという音もあったという。動かないように熱湯をかけられ何も抵抗できずに殺された。ぼくはこの本を読みきれぬのかちゅうちよした。でも実際におきたこの残虐な事件から目を反らしてはいけないと思った。こんな事は決して許されず二度とおきてはいけないと強く、強く感じた。きっと一人でも多くの人に命について考えてほしいと思い出版されただろうこの本を、小さな命の大切さをぼく自身も多くの人に伝えたいと思ったからだ。心臓がドキドキして涙が出て来た。信じていた人間に捨てられ身体を生きたまま切り刻まれ、二度も人間に裏切られて逝ってしまった命。人間と同じ痛みや感情もある小さな命。心の痛みが何日も、いや今も消える事はない。しかしこの事件がきっかけで日本が変わった。このサイトを見た人達が「Dear. こげんた」というサイトを立ち上げた。当時の動物愛護法は書類送検で終わってしまうだけだったのでこの人達が法律を変える為に立ち上がった。サイトで署名活動を初め、日本だけではなく世界全国からの（こげんたを想う）熱い気持が一つになった。嘆願書も三万通をこえ、署名の数は数えきれないほど集まった。その結果、犯人が懲役六ヶ

月となり法律は改善された。でも、それでもこげんたはかえっては来ない。こげんたはぼく達が想像できない痛みと恐怖、悲しみで死んでいったのだと思うと六ヶ月の懲役は短かすぎる。しかし、法律を変えた事でこげんたの死が無駄にならなかったのがわずかなぼくの気持ちの救いにも感じられた。世界中の人々がこげんたの為に動いて奇跡が起きた。

ぼくの家には猫が二ひきいる。一ぴきの猫は通り端にあるぼくの家の中に、投げ込まれた子猫だ。心ない人が、怪我をし弱った子猫を捨てていった。介抱しても引き取ってもらえる所がなく悩んだ。愛情があってもこの猫の一生を責任持って世話ができるのか？家族の一員として大切な命を守れるのか？そんな思いを決心するまで何回も家族で話し合った。もう一ぴきは捨てられてさまよい、車に引かれそうになった子猫を育てる事となった。しかしその猫達は、ぼくの家族にとって今ではなくてはならない大切な存在になった。沢山の笑顔をもたらしてくれる立派な家族なのだ。今、社会で捨て犬や捨て猫の殺処分も問題視されている。こげんたもそうだが人間の無責任な考えや行動が小さな命を奪っている。不自然な命の扱い方を受けている犬猫は日本で毎年十二万匹以上もいるのだ。ぼく達人間が選択する事で救える命がある。そんな現実を直視し、生ある全てのものにぼく達はもっと思いやりを持ち命の尊重をするべきだと思った。ぼくはこげんたが無力のまま殺された事がとてもくやしい。動物も人間も同じ命を持って生まれて来たのにこの様なかたちで猫を殺したら人間が殺される事と同罪だと思う。弱い者を守る世の中になるよう、一人一人が意識を持って生きるべきだと心から感じた。悲しい事にその後も動物の虐待事件は続いている。でもこげんたの死を無駄にしたくない一心で沢山の人が動物の為に何かしたいと願っている。これはすごい事だ。又、インターネットの使われ方の裏と表を知った気がした。目にしたくない映像が拡散される事もあれば人の力を結束したり助け合いの為に使われたりもする。人々の選択が世の中を良くも悪くも変えるという事実を胸に、ぼく達は正しい選択を見極める目をもつべきだ。そして命の尊さと、愛を与え合うという生き方をもう一度、自分の胸に刻み込む事をこげんたから教わった。